

早春の山歩き

竹之高地で見つけた 早春の植物

山菜が小さい？

「小雪の年は山菜が小さい」と山の婆さんから聞き、「今年の4月に雨が降らなかったのも山菜が伸びない」と魚沼の人が話していた。この冬は小雪で雪融けが早く、山菜も早くから採れたが、右の写真のように大きく伸びず、下からすぐ葉が出てきている。なかなか太く伸びたのは、なかった。天候のせいだけでなく、毎年採り過ぎかも？



山ウド 撮影 2014/04/27



ミズバショウ 撮影 2014/04/27 のかづか宅付近

サンカヨウ

撮影 2014/05/04

西山で咲いていました。

茎の先に直径2cmほどの白色の花をつける。

花は小さい葉につき、葉の上に乗っているように見える。

花のあと、濃い青紫色で白い粉を帯びた実をつける。実は食用になり甘い。

(一部ウィキペディアより引用)



透き通るような白がきれいです。葉と茎はふきに似ています。



ショウジョウバカマの白花 撮影 2014/04/27 西山

竹之高地でこの白花を見るのは、初めてです。カタクリの白花と同じく、茎は紫色がなく薄黄緑色である。



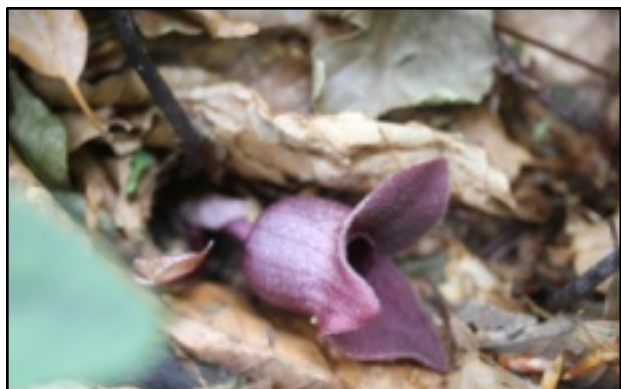
イワナシの花『いわずっぱつ』撮影 2014/05/04 6月初旬には、酸味と甘みの味をした、梨に似た食感の楽しめる実になります。昔は田植えの一服に食べた思い出がある。

ギフチョウとカンアオイ

ギフチョウは30年ぐらい前まではたくさん見れたと思います。長岡市内の小学生たちが5月中旬に竹之高地に採取に訪れていた記憶があります。現在のはたまたま単独で飛んでいる姿を見る程度で、雄雌が仲良く飛ぶ姿は見たことがありません。春、桜やカタクリ、スマレの開花を待っていたかのように羽化し、産卵して、消えてしまいます。カンアオイの葉の裏に卵を産み付けて、2～3週間ほどで、幼虫（毛虫）となり、カンアオイの葉を食べて成長し、夏には成熟して地表に降り、落ち葉の裏でさなぎとなり冬を越します。



カンアオイは、草丈は10センチ程度、暗紫色の軸を伸ばして先端に葉を付けます。葉の形はハート型で、様々な模様が入ります。花は早春から雪どけを待って、葉の軸の付け根に1～数輪の花を咲かせる。花色は主に暗紫色で、先端が3つに裂けた壺形をしています。生育場所は広葉樹の林の中、ある程度人間が手をかけた里山に多く生育すると多くの書籍に書かれている。いずれの撮影場所も落ち葉の中でカンアオイを見えています。このあたりの種類は『コシノカンアオイ』とあり、新潟県や環境省が発行しているレッドデータブックでは、準絶滅危惧種に指定されている植物で、近年数が少なくなっているそうです。



カンアオイの花 撮影地；東山 2014/05/05 撮影

暗紫色のツボ状の花、直径2センチ、長さ3センチぐらいの大きさ、落ち葉に隠れて咲いていることが多い。



カンアオイ 2014/05/03 撮影



ギフチョウ
2014/05/04 撮影
撮影地；西山



ギフチョウの卵 2014/05/05 撮影

撮影地；蓬平町猿倉 ギフチョウの卵
真珠のように光沢があり、1mm以下の小さな卵です。10粒程度産卵します。